

いこいの村

松本明彦

題字 栗の木寮

2014年（平成26年）10月20日発行

第389号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

祝！敬老祝賀式



来賓の方々にお礼の品をお渡しします

ありがとうございます
13405#64

9月11日、2年ぶりとなる敬老祝賀式が行われました。式当日は、晴天にも恵まれ、利用者も晴やかな表情で式に参加されました。

昨年は、第1係のユニット化に向けての改修工事中で、仮部屋での生活だったため、各棟にて行われました。今年は無事工事も終わり、梅の木寮・栗の木寮の方々が一堂に会して行なうことが出来ました。

お祝いの品を受け取り、深々と頭を下げてお礼の言葉を述べられた方、来賓の方にお礼の品を渡し、謝辞を伝えられた方がおられました。

また、この場をお借りしまして、ご協力いただきました方々に、改めて御礼申し上げます。

（いこいの村・梅の木寮

第1係 舟木務）

子育ても介護もやさしい働きやすい職場です

9月の好天の日曜日、いこいの村職員互助会主催の職員旅行で大阪のUSJ(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)へ職員24人と家族(奥さんや子どもたち)15人の総勢39人でにぎやかに出かけました。

いこいの村職員互助会では歓迎迎会やグループに分かれての年4回の職員旅行が企画されますが、子連れ参加も可能でアットホームな雰囲気で開催されています。

この日はお父さん、お母さん職員も家族サービスに専念する1日となりました。

制度が活用しやすい職場です

10月現在のいこいの村職員数は209人。うち女性は128人です。過去3年間に産前産後休暇・育児休業をとった職員数は延べ12人です。転居や家族の介護等子育て以外の理由と重なり、やむなく退職した2人を除いた10人が1年間の育児休業後、復職をしています。子どもが3歳になるまでは、希望により時間短縮勤務が選択できます。朝は1時間遅めに出勤、帰りは1時間早めに退勤し、余裕をもって保育所への送迎をしています。

事業所によっては「制度はあるけど、活用がしにくい」と

困りがあったり実際には使えない」という例を耳にすることはありませんが、いこいの村では、ほぼ100%の職員が制度をうまく活用しています。



家族同伴で職員旅行 USJへ行きました

自主活動「ママ友の会」

「実家も遠いし、まわりの子育ての悩みを相談できる相手もないし…」と、育児休業中や復職した職員が、月1回程度集まる「(仮称)ママ友の会」の輪が広がっています。

ママ友会では、子どもを遊ばせながら、お母さん達は子育ての悩みや復職に向けての不安を経験者に聞きます。そして共通の話題に花を咲かせ、互いに励まし助けあっています。

「一人一人が主人公」が礎

子育てや家族の介護は、誰もが順番に通る道とは言え、経験を積んだ職員の休業は現場にとっては痛手となります。しかし、そのような中でもいこいの村に制度が活用しやすい雰囲気と実績があるのは、「ママ友の会」のような当事者同士の結びつきと「利用者も職員も一人一人が主人公で大切にされるべき存在である」という、事業所開設以来の理念が礎にあるからだと思っています。



子育て談義に花が咲きます

お互いの人生を大切にしたいという、職員同士の持ちつ持たれつの思いやりが、誰もが働きやすい職場環境を作っています。

いこいの村では現在職員を募集しています(4面掲載)。あなたも是非一緒に働いてみませんか。ご応募をお待ちしています。

(いこいの村総務部)

採用担当 岩本 幸子



聴こえの豆知識

黄色のちょうちよマークを見だしてありますか？

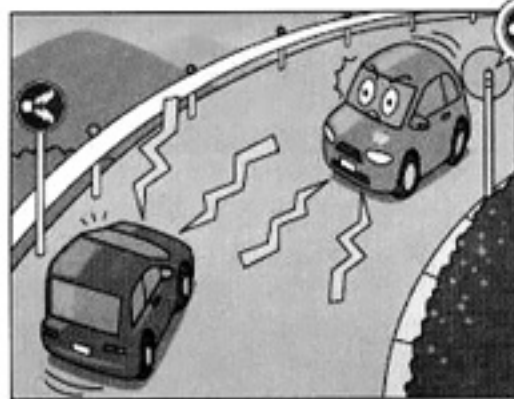


これは聴覚障がい者が自動車を運転する時に、義務付けられているステッカーです。平成20年6月1日から、音が全く聞こえない者にも『ワイドミラーとちょうちよマークの装着』の条件で、運転免許取得が可能になりました。運転をしていて、危ない場面に出くわしたら、とっさにクラクションを鳴らして危険を知らせる、という方が多いと思います。しかし、聴覚に障がいがあるドライバーには伝わりません。そこで他車に注意を喚起す

るために制定されたのが「聴覚障がい者マーク」です。

クラクションが使えないので、車間距離を十分にとることなど聴覚障がい者が運転する車への配慮がドライバーに求められます。特に留意すべき運転場面が次の4点あります。

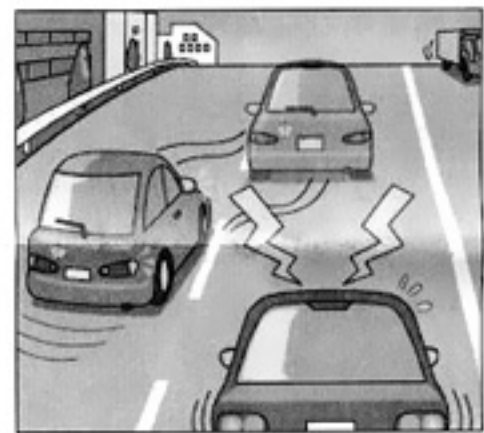
①「警笛鳴らせ」の警戒標識が設置されている山地部の道路



②見通しのきかない交差点、曲がり角など



③脇道からの前進または後退で大きな道路に入ろうとしている自動車



④進路変更しようとしている自動車

またマーク表示車への「幅寄せ」「や」割り込み」は禁止されています。

そもそもマークのデザインが「ちょうちよ」なのは聴覚の「ちょう」を掛けたものです。耳の形をモチーフとして、蝶にも見えるようにデザインされました。

ちょうちよマーク、どうぞご理解と心へばりをお願います。

(いこいの村・梅の木寮)

第1係 和田淳希



施設第2福祉部
部長 記由美

9月11日、いこいの村敬老祝賀式にて、梅の木寮86名、栗の木寮22名、総勢108名の利用者がお祝いを受けられました。最高齢99歳の方が綾部市よりお祝いを受けられ「ありがとうございます」「ゆっくらと言われた時は感動しました。大正5年生まれ、長い人生を歩んでこられた重みがにじみ出ていました。9月まで、NHK連続テレビ小説『花子とアン』が放映されていましたが、大正生まれの方たちが生きてこられた時代に思いを馳せながら、毎日楽しみに見ました。

いこいの村の敬老祝賀式では手話と要約筆記をつけて、聴覚障害者や聞こえにくい方にも楽しんでいただけるよう配慮をしました。綾部市では、いこいの村のほかこの地区1施設の敬老会に要約筆記が付きます。『綾部市要約筆記サ-

クルみみずく』のメンバーが要約筆記のお手伝いをされています。近隣の市町にはない画期的な配慮だと思えます。

総務省によると、日本の65歳以上の高齢者は2020年6万人、総人口に占める割合は25.0%と過去最多の65歳以上の高齢者数は636万人、これも過去最多とありました。より多くの高齢者が長く社会参加・貢献ができるよう、聞こえの保障はますます大切になってきます。「こぎげんよう」と挨拶がはすむ平和な世の中も。



